

# 心を育てる活動を 手話で実践

大山保育所



▲船原館長による手話を交えた昔話

鳥取県では「手話言語条例」を制定し、手話も言語としてとらえています。

大山保育所でも子どもたちが手話を学ぶことで、さまざまな人とコミュニケーションの幅を広げることを目指しています。

この活動は、平成24年度から始め、毎月一回、町立図書館の船原文野館長が指導しています。

子どもたちは「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」のあいさつや曜日など、一つ一つ意味を聞きながら手話を学んでいます。

また、手話を交えながらの昔話、わらべ歌遊びや手遊びにも楽しく参加しています。

言葉はコミュニケーションをとるために必要不可欠です。今では、保育所へ手話ができるお客さんがこれらとき、子どもたちが手話でありさつもできるようになりました。

こうした活動と人々とのふれあいをとおして、子どもがさまざまな文化に出会い、興味や関心を持つたり、自分の家族や身近な人のことを考えたりするきっかけになってほしいと考えています。

## 大山町いいところ探し CMづくり大作戦!

名和公民館 子どもカルチャー教室

名和公民館の子どもカルチャー教室は、6月28日(土)から5回シリーズで『大山町いいところ探しCMづくり大作戦!』を行いました。

これは、町内の小学生が大山町のいいところを探し、「取材・構成・撮影」を自分たちで行い、5分間のCMにまとめるという映像制作体験です。

参加児童は11人。よなご映像フェスティバル実行委員会の皆さんの指導で、活動しました。

1回目は、映像作品が完成するまでのしくみを学び、チーム名やリーダー・レポーター

2回目は、ロケ地に出かけて取材をしました。いわゆるロケハンです。

3回目は、絵コンテ(台本)作り、4回・5回目の2日間

このなかで「食レポチーム」は「うまいもん大山」のテーマで大山町のおいしいものを紹介。テレビCMチームは「風車(太空海号)のひみつ」を、また「大山チーム」は「町

子どもたちは初めての経験に四苦八苦。何を撮影して伝えるといいのか、なかなか決まらなかったチーム、取材先でどんなことを聞くといいのか戸惑い、モジモジしながらやつとの思いで質問する子、店内の来客者に取材交渉をし、断られて気落ちする子ども、さまざまな体験を経て撮影に挑みました。

8月末には完成上映会を行い、取材撮影に協力してくださった関係者や保護者の方々とCMを観賞しました。

作品は、12月に開催の『よなご映像フェスティバル』に応募する予定です。



▲風車の取材中  
見るもの全てが新しい発見です



▲撮影現場  
「ねえ、この魚も撮影しようか?」



▲ロケハンから戻った後は、取材したことをまとめます